

鳥羽市全員協議会会議録

令和3年3月18日

○出席議員（14名）

1番	南川則之	2番	濱口正久
3番	瀬崎伸一	4番	片岡直博
5番	奥村敦	6番	河村孝
7番	山本哲也	8番	中世古泉
9番	木下順一	10番	戸上健
11番	浜口一利	12番	坂倉広子
13番	坂倉紀男	14番	世古安秀

○欠席議員（なし）

○出席説明者

・濱口企画財政課長、高浪副参事、田畑補佐兼企画経営室長、横田補佐

○職務のために出席した事務局職員

事務局長	清水敏也
議事総務係書記	中村真緒

次長兼 議事総務係長	木田崇
---------------	-----

(午後 2時10分 再開)

○木下順一議長 予算決算常任委員会に引き続き、お疲れさまです。

ただいまから全員協議会を再開します。

本日の案件につきましては、お手元に配付してあります事項書のとおりでございます。

それでは、議事に入ります。

協議事項1、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（第3次補正分）活用アイデアについてであります。

それでは、担当職員の説明を求めます。

企画財政課長。

○濱口企画財政課長 企画財政課、濱口です。よろしくお願いいたします。

予算決算常任委員会に引き続きまして、貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

2月2日に臨時交付金のほうの決定がまいりまして、それ以降、職員等にいろいろ指示を出しまして、アイデアをいただきました。それが3月になってまとまってまいりましたので、今後のことも含めまして、今後の3次補正分のこの1億6,573万1,000円の活用アイデアについて本日は議員の皆様方にご説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 高浪です。よろしくお願いいたします。

それでは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（第3次補正分）の活用のアイデアについてご説明をいたします。

さきにお渡ししました資料をご覧ください。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金については、2月に国から交付限度額の通知がされました。交付限度額は1億6,573万1,000円でございます。全額本省繰越を行い、令和3年度1年間のコロナ対策事業として進めてまいります。

2月に各課へアイデアを募りまして、3月5日には関係課が集まり、意見交換をいたしました。今回ご説明いたしますアイデアについては、今後のフェーズによっては不要となる事業や予算規模によっては実施が困難な事業も掲載していることをご了解いただければと思います。

といいますものの、実施計画に掲載がありませんとコロナ対応臨時交付金を活用できませんので、考えられるアイデアについては掲載をさせていただきました。今後は、実施計画を策定し、国へ提出を行います。その提出時期については、まだ国から指示がないところでございます。今回、ご説明をさせていただきまして、議員の皆様からもご提案をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、アイデアについては、田畑補佐より説明をさせていただきます。

○木下順一議長 田畑補佐。

○田畑補佐兼企画経営室長 企画財政課、田畑です。よろしくお願いいたします。

それでは、資料に基づき、現段階で上がっているアイデアについてご紹介いたします。

①から④の四つの分野に分けて説明をいたします。

まず、左上、①感染拡大の防止の分野です。

感染防止対策としては、新型コロナウイルス感染症への一番の防御はワクチン接種だと考えており、市としては、これを軸に別財源にて対応してまいります。このコロナ臨時交付金事業でも感染防止策を補強できたらということでアイデアを上げております。

一覧表をご覧ください。

順にご紹介しますと、まず、行政施設において感染が発生した場合の消毒、除染関係で、庁舎のほかひだまり、小中学校、保育施設において対応する案が上がっております。令和2年度に引き続き市内事業所において感染が発生した場合の除染に対する補助も上がっております。また、一覧表5番目になりますが、今年度避難所用に感染防止対策用資材を購入したため、それらを格納する倉庫の購入等もアイデアとしては上がっております。このほか、鳥羽への帰省に際しPCR検査を受けた方への補助や市内の生活困窮者、障がい者、高齢者へのマスク配布、高齢者が集う場への消毒液等の配布もアイデアとして掲載しております。

続いて、右上をご覧ください。②くらしの維持・事業継続の区分です。

苦しい状況にある市民の皆様を支え、市内事業所において事業が続けられるようにするためのアイデアを束ねた分野です。吹き出しをつけておりますが、国や県において、各種支援制度の発表がされてきております。市としては、市内の対象者がこうした制度をしっかりと活用できるようにつなぎ込み等に努めるとともに、制度の隙間への補完を考えていきたいと思っております。

一覧表をご覧ください。

上から感染者等への見舞金や困窮者への食糧支援・物資支給を拡充する取組、就労移行支援・就労継続支援事業所へ通っている方への応援金といったアイデアが出ております。また、こうした障がい福祉サービス事業が受注業務の減少といった状況に際し、事業継続ができるように応援する。同様に高齢者施設においても感染発生により通所サービスの停止や縮小が生じた場合に、その施設が事業継続できるように支援するといったこともアイデアとして掲載しております。

その下には、感染発生により急遽市内小中学校の修学旅行を中止せざるを得なくなった場合のキャンセル代やコロナ禍において十分な活動が難しくなっている文化団体、市民活動団体への支援もくらしの維持というところの案として掲載しております。

事業所への支援については、先ほどもお伝えしましたように、現在、国や県の各種支援制度の情報が出てきていますので、申請について具体的に相談対応できる窓口の設置について、令和3年度も継続したいという案が出ています。また、国・県の制度の対象外の事業所を支援していくアイデアも出ています。このほか、人の動きが止まり、それに伴って水産物の出荷に長く影響が出るようであれば、魚価の下支えについて検討するというアイデアも出ております。

続いて、左下へまいります。

③経済活動の回復の部分をご覧ください。

人の移動が再開、活発化してくるフェーズにおいて、その動きを加速させるためのアイデアをまとめております。観光から各種業種に波及していく地域経済を活性化させるため、令和2年度は宿泊支援を度々実行して

きました。点線で囲った部分にお示ししていますように、令和2年度中には約4億5,000万円の交付金の交付を受けましたけれども、その一部を活用して、年明けからクーポン発行と鳥羽ざかなの消費拡大キャンペーンを予定しておりました。しかしながら、年度内の執行が難しいため、それを令和3年度に繰越し、時期を見てスタートさせていきたいと考えております。これだけは別の、国の2次補正分を繰越す形になります。

3次補正分については、一覧表にまとめております。

今後、第4波が来ることも想定し、人の流れがある程度限定的なフェーズにおいて、市内で経済を回す第3弾のプレミアム商品券、あるいは少し範囲を広げて伊勢志摩広域で消費拡大を促進するような案が検討材料として上がっております。また、観光施設への支援や観光客の周遊を促進する案もアイデアとして出ております。

次に、④に移ります。右下です。

新しい生活様式の分野です。

まずは、感染を防止する、広げない、命と暮らしを守るための取組と経済を回していくことが重要と考えられますが、国から2次補正で交付金をいただいた際に説明があり、今後に向けて、コロナ感染症等のリスクに強い社会環境を整備し、新たな暮らしのスタイルの確立についても積極的に取り組むようにとの期待感がそこには込められておりました。

そこで、本市においても、新しい生活様式の転換として、今後検討を進めていく可能性がある分野を記載しております。

一覧表をご覧ください。

上から、電子申請等に対応できる市ホームページのリニューアルや市営定期船、かもめバスのキャッシュレス対応、高齢者のタブレット利用を促す実証実験や図書館における電子書籍、自動貸出機の導入、中央公園施設のオンライン環境整備といったデジタル、非接触といった分野でのアイデアを列記しております。また、令和2年度に拠点整備を支援したワーケーションについて、受入れの加速に向けた働きかけも上がっております。

新たな設備投資を伴う事業も多く、予算化に制約がある分野ではありますが、まずは検討をしていくアイデアとして上げております。

本交付金の交付に係る流れについては、先ほど副参事も申し上げましたが、まずは事業の計画を取りまとめ、それが認められたら計画に記載されている事業について、年度当初に遡って交付金の充当が可能となります。

このため、計画については、事業の残を有効に活用する、あるいは変更に対応するといったことを想定し、実際の限度額の規模を上回る形で作成することが推奨されております。今回も可能性がある枠を広げておくため、まずはアイデア出しに着手したところです。

まだまだ精査に入るまでの暫定案ですので、いろいろ議員の皆様からご提案等お聞かせいただければと思います。

説明は以上です。

○木下順一議長 説明は終わりました。この件につきまして、ご質問やご意見、またアイデア等ありましたらよろしく願います。

(「議長、ちょっと上着脱がせてください」の声あり)

○木下順一議長 上着、脱いでいただいて結構です。

河村議員。

○河村 孝議員 いろんなアイデアを出していただきました。私が思うには、2次補正分の繰越した分ありますよね。それを一刻も早くやるのがまず先決ではないのかなというふうに思っていて、この3次補正についても、そこを担保する形で、要は観光客誘致、周遊促進に最大限、できるだけ投入をするのが一番経済波及効果が大きいのではないのかなというふうに感じています。

もちろん大前提として、感染拡大防止策をしっかりとやるというのは大前提なんですけれども、2次補正分についても、いろいろ意見があって、反対派の意見があったのも確かだとは思いますが、国の情勢を見てみますと、なかなかG o T oの再開には踏み切りそうにない雰囲気なんですよね。流れが。

ただ、G o T oの効果というのは、本市に対してはかなりあったと思うし、コロナ禍においても、まちに活気があったのは確かなんです。あの年末のときに。だから、非常に有効な手段だと思いますし、それで、魚価も上がっていたはずだし、各飲食店の売上げであったりとか、お土産物屋さんも経済が大きく動いていたのがあの時期ではないのかなというふうに思うので、一番波及効果の多いところに最大限投入できるだけ、何となくばらばらと色々な事業をやりたいのも分かるんですけれども、そうじゃなくて、1本に集中して、最大火力で経済を動かしていくということを私としては望みたいなというふうに思います。

それによって、もちろん、じゃ、鳥羽に足を運んでもらってしてもらうことが鳥羽ファンの拡大にもつながって、ふるさと納税への波及も出てくると思うし、かもめバス、定期船への波及効果もありますし、もちろん入湯税へ跳ね返ってくるというところの、一番経済へ波及する効果が大きいと思うので、なるだけそこへ最大限の力を入れていただきたい、お金も入れていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○木下順一議長 ほかにございませんか。

浜口一利議員。

○浜口一利議員 まちの中の現状を本当に見てみると、一番大事なことは、くらしの維持・事業継続だと思うんですけれども、この中で、アイデア例の中には、2番の中には私の思っているくらしの維持だとか事業継続をするアイデア例というのがあまり当てはまらないんですけれども、私がやはり思うのは、経済活動の回復、このあたりがやっぱり一番大事なことかなと思います。

集中的に実施すること、経済活動を集中的に実施することでの波及効果で全体を高めていくというのは、考え方でいいと思うんですけれども、先ほどの説明を聞いていますと、計画がないと採択がされないということで、いろんなアイデアを出して計画を上げるという手法では今の現状の回復ということでは、ちょっとどうかかなと考えます。

数多くの事業を全て行うことは、広く浅くというのは、今回はやめてほしいし、集中的に事業を行って、その波及効果でだんだんくらしの維持・事業継続を図っていくというような方向性の事業、こんなことをやれというのは、まだ今のところございませんけれども、やはりこの経済活動の回復のアイデア例の中で、この商品券とか消費拡大の、このあたりというのは、一番やってほしいなと思います。

○木下順一議長 他にございませんか。

濱口正久議員。

○濱口正久議員 たくさんアイデア出していただいております。1億6,500万円ですので、多分この中で集中、選択しながらやっていくことだと思うんですけども、ただ、今、感染症の対策のところというのは、個人的にでも、商店も含めて、ある一定の対策はされてきたと思われるところはあります。

でも、感染が拡大してクラスターになったりとかという事例も発生して、感染症拡大のところは、拡大を防止するところに多分来たりとか、除染作業のところは一つ重要な鍵かなというところもあります。

市民の暮らしからいくと、かなり疲弊した状態で、経営者の方々が非常に苦しい状況にあると思うんですけども、一番は、やっぱり市民の声とか、自治会とかの声をしっかりと酌み取っていただいて、市民の声を酌み取るには、やっぱり相談窓口、今後1年以上相談窓口は設置すべきやと僕は思います。いろんなことに対して、今後、どんなフェーズにあっても総合的に対応できるような、何かの新しい対策をするに当たっても、いろんなこと、それはどんなやということも含めて、相談窓口の設置は必要かなと思います。

今回のようなことが第3波、第4波といつ来るかわからず、どういう状況になっても対応できようと思うと、一番最小限の単位、鳥羽市であり、この伊勢志摩地域の中で域内循環をさせて、それから三重県とか、全国とかに拡大すべきだと思うんですけども、それが全国、いつかわからない状況でも、鳥羽市としては域内循環で回せるような仕組み、それには、ここのアイデアの中にもありますけれども、プレミアム付商品券事業とか、定期船もありますけれども、キャッシュレス化は非常に感染症ともリンクして重要かなと、今後のことも考えるとどんなフェーズにも対応できる部分かなと思います。

キャッシュレス化の、僕も驚きましたけれども、市営定期船、かもめバスも出ていますけれども、市営定期船に乗っていたときでも、やっぱり切符をすごく嫌がる人も、非常に感染が強いときには見えたので、そこは何かできないかということはあったんです。キャッシュレス化の話とかというのも出たことは確かです。

今後のフェーズを考えると、含めてそういうのも対応できるようにしていただいたほうが、どんなときでも、第3波、第4波でも対応できるようにすべきかなというふうに思います。

○木下順一議長 他にございませんか。

ちょっと待ってよ。執行部としては、多分、ここに書いてもらってある以外にも何かアイデアがあったらほしいというようなことも含まれておると思うので、そのあたりもありましたらぜひご意見いただきたいと思います。

瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 すみません。ちょっと確認してからなんですけれども、現在3月、今の現状このぐらいの感じで、最短やれるとしても6月補正を経てからぐらいの話になるぐらいのレベルのスパンで考えられるものなんですか。もっと最短、ぐっと縮めて、もう4月からやれるよとかという感じのものなんですか。

○木下順一議長 財政課長。

○濱口企画財政課長 フェーズに応じてという、冒頭でも話をさせてもらったんですが、すぐにでも動ける状況ですので、6月補正等云々は別に意識しなくても、もうすぐにかかれる事業があったらすぐにかかれるような状況です。

○木下順一議長 瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 現在、私もいろいろ経済の回復のほうに力を入れていただくことが大事だと思うんですけども、令和2年の2次補正のときなんかは、OTAに対してお金を出すという、いわゆるマストツーリズム、マイクロツーリズムでいくと、要は、マイクロツーリズムのほうをすごく重点的にされておったと思うんですけども、やっぱり、いわゆるツアー商品というような言い方をすればいいのかな、旅館にご飯を食べに来て、周辺の土産物屋さんへ寄ってとかいうツアーとして動いていただくお客さんというの、やっぱり鳥羽には一定数、結構たくさんいらっしゃるんで、そこも今現在、バス1台40人乗れるものを半分、20人で動かさなくてはいけないからというので、実際、動きにくくなっているというのが現状やと思うので、できれば、そういうバス会社に対してお金を、補助出してあげるとか、エージェンツに対してお金を補助してあげるから鳥羽を満喫するツアーを組んでくださいとかというように、ぜひ早急にしていただけると、6月補正かなと思っていましたので、恐らく6月に、もうその案内がかかっても、実際、お客さんとして動くのは秋口のお客さん、3か月後ぐらいのお客さんになると思うので、できるだけ早い段階からそういうアナウンスをかけていただければ、恐らくは、結構自由度があって、どこか飲食店へ行ってください、どこか土産物屋さんへ寄ってください、どこか観光施設に寄ってください、これを全部セットにしてくださいというの、実際販売できると思うので、そういうものも意識の中に一つ入れていただけると、他地域との差別化も図れるんじゃないのかなと。

いわゆるマイクロツーリズムは、結構、これこそほかの自治体もやられるように思うので、埋没していかないかなと、観光課長は、金額で頑張りますと言ってはったんですけども、なかなかそこら辺も、言い方難しいんですけども、1万円の方が10人よりも100人おったほうが、もちろん経済波及効果は高いとは思いますが、そういうところも意識して、アイデア組んでいただいたほうがいいんじゃないかなと思うんですけども、いかがですかね。

○木下順一議長 他にございませんか。

何か言われますか。

企画財政課長。

○濱口企画財政課長 経済活動の回復の部分で、今言われた部分というのは、観光施設の支援であったり、観光客の周遊客というところで、それでプランニングして、鳥羽の市内の事業者へ事業費としてこういった交付金を活用できないかということの事業を今考えていますので、観光課が、今、予算でやっている事業とは、またちょっと区別していく必要があるのかなと思っていますので、あくまでも、これはコロナ感染対策用の事業の引き落としで、鳥羽市内に落とす金を、今、どっちかというと考えていますので、そういうふうにご理解いただければというふうに思います。

○木下順一議長 ほかにございませんか。アイデア。

坂倉広子議員。

○坂倉広子議員 今回、この1億6,000万円の、内閣府のほうでは、もう何か出ているんですかね。予算の詳細というのか、もうネットで出ているかと。

○坂倉広子議員 ですよ。

それで、私もちょっといろいろ見させていただいた中で、やっぱり細かいことを言うようですけども、担当課は分かっていると思うんですけども、障がいを持っていらっしゃる方が、マスクをつける、マ

スクだけというのは、とてもつけられない方もいらっしゃるんです。何と言うんですか、締めつけられたりとか、そういうふうな。

なので、このマスク、障がい者向けマスク配布というだけに限定をせず、要は感染拡大防止のために、例えば、フェイスシールドとか、例えば、その人たちが対応できるような、きちんとした、要は感染防止をできる体制というので、やっぱり私も、このマスクだけにどうしても文章の表現をされておりますけれども、例えば、消毒液でもそうですし、機材に対しての、少し柔軟のある表現というのがあられたらいいのではないかと、ところがちょっと気になりました。

それと、やっぱり経済対策ということで、暮らしと雇用を守っていくということで、世古議員が一般質問されていたプレミアム商品券のこともおっしゃってましたので、やはりここは経済対策で、本当に質問を聞いて、もっとはっきりやってもらえるという答弁が欲しかったというお声もいただいたんです。私。

なので、そういう市民の方が、経済がきちんとできるということというのは、やはりこういう商品券のアイデアを打ち出していくということも一つではないかと思いました。

それと、一つ、国土強靱化の法律が3か年になったのが、今回の法改正で5年になったということを伺っておりますが、防災・減災の国土強靱化機能も、私も建設課の説明があったときに言わせていただいたんですが、金額が決まっていて、この範囲でしかできないというんじゃなくて、この国から下りてくるものを上手に使われて、それで、体制整備を整えていく、道路の整備でも整えていくということがとても大事ではないかと思うんです。なので、ここには入っていないですよ。国土強靱化の推進の安全というのは、そこをちょっと言わせていただき。

予算というのは、そういうふうで落ちて、第3次補正予算というのは、もうあるわけですよ。ちょっと分かるように教えていただけますでしょうか。

○木下順一議長 横田課長補佐。

○横田補佐 ちょっと今回の全員協議会のほうでお願いさせていただいたのは、新型コロナウイルス感染症のこの地方創生臨時交付金の話になっております。議員おっしゃられるように、国土強靱化ということで5か年のほうがついておりますけれども、それとはまた別のものになっておりますので、あくまで今回地方創生臨時交付金のほうで、この新型コロナに対応するものだけで充てるものになってきますので、強靱化のほうはまた別になっています。

○木下順一議長 坂倉議員。

○坂倉広子議員 ということは、15か月予算というか、中に盛り込まれているというものを上げていただいただけではないということでございますでしょうか。

○木下順一議長 企画財政課長。

○濱口企画財政課長 今横田補佐が説明したんですけれども、内閣府の3次補正の中にはそういったメニューも全部あります。ただ、あくまでもコロナウイルス対策の臨時交付金としてうちに来たのが1億6,500万円で、ほかにそういったメニューが出ていますので、それはまた国土強靱化として3億4,400万円の別のメニューがありまして、そういう事業になっていきますので、ここの中には、どっちかという入っていない。

○木下順一議長 よろしいですか。コロナの感染のほう。

○坂倉広子議員 感染のほうということで、この関連に対し1が感染拡大の防止、2がくらしの維持と事業継続、3が経済活動の回復ということと、4番が新しい生活様式への転換という、この四つの柱で取り組まれていくということで、ほかにないですかということで理解したらよろしいんですか。

(「そうです」の声あり)

○坂倉広子議員 分かりました。

○木下順一議長 世古議員。

○世古安秀議員 皆さんおっしゃられるように、やっぱり経済回復が一番の集中して取り組むべき時期だというふうに思います。

その中の第2次補正では、OTAとか鳥羽ざかながありますけれども、下に三つ書いてありますけれども、それ以外に一つの考えとしては、一般質問でも提案させていただきましたけれども、GoToトラベルが再開されたときに割引、鳥羽市の上乗せというのはぜひして、鳥羽のほうへ誘客してもらうような、そういうふうなことをやっぱりやっていただきたいな。そして、小さいところにも、事業者にも行き渡るような支援ができるような方法をぜひ考えていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○木下順一議長 奥村議員。

○奥村 敦議員 今回のアイデア例を見せていただいて、個々にどうのこうのという意見は私は持っていません。

あと三重県のほうも支援金が3月から申込みが始まりまして、数件の問合せをいただいております中で、今までは支援金をもらいたいという形の声が多かったんですけれども、1日も早く、すぐに欲しい、そのためにはどうしたらいいのというふうに言うぐらい鳥羽市内の飲食店等々は、本当に1月よりも今のほうがひどいんじゃないかなというのを私実感しております。

そこで、たくさんのアイデアを小出しするということも大事なのかも分かりませんが、今回は、皆さんもおっしゃっていますけれども、やっぱり地域経済対策に重点を置いて、そこにやっぱり小出しするよりも、支えるためには、1万円、2万円ではなかなか難しいと思いますので、そこに重点を置いて、地域経済活性化のために私はやっていただければありがたいなと感じています。

以上です。

○木下順一議長 戸上議員。

○戸上 健議員 活用アイデアの全体の僕の印象ですけれども、1次、2次では僕文句も言いましたけれども、今回は、全く異論はありません。いいリストだというふうに思います。

この就労継続支援、B型通所者への応援金、先ほどの説明では、制度の隙間を埋める取組ということをおっしゃいましたが、B型作業所については、提案もしましたが、これは、第2次で、伊勢市800万円、松阪640万円で支援金というのを出してあります。

それから、電子書籍、これも図書館パワーアップ事業で各支部やっておりますもんで、ぜひ、これも手がけてほしいというふうに思います。それから、PCR検査、僕は、全自動のPCR検査器190万円でできるものでということで提案したけれども、市長も研究すると言うておったけれども、これから第4波、それから新

型株、これに対して鳥羽市はPCR検査で安全ですと、安全な観光地ですということをPRする上でも、高齢者施設にとどまらず、この検査器があれば、宿泊施設の従業員も全部、1週間に一遍検査して、太鼓判を押せるということになりますもので、そのあたりも研究していただければというふうに思います。

それから文化団体がまだ、これ隙間にもなっております。歌手の方、あの方、事例上げましたけれども、全く困ってみると、そういう方を救ってやっていただきたいと思います。これは、僕は、このリストは大賛成です。

その上で、この第1次三重県29市町で360事業、これから第2次で1,300事業、29市町で実施をしました。鳥羽市も遜色ありません。各市町の事業を見て、これはうちも参考になるんじゃないかというのが5点ばかりありますもので、紹介しておきます。

一つは、これは伊賀市や松阪市がやっておる月1回地元産食材活用学校給食と、これ松阪牛でステーキを子供たちの給食に提供すると、もう大喜びだったそうです。地元の松阪牛の生産農家も助かるということあります。鳥羽はもう本当に海産物、これのメッカですから、また、それを子供たちが本当に堪能するところを今回もやっていただいたらどうかというふうに思いました。

それから、児童生徒に地元特産品をセットでプレゼントしておるとするのは松阪市、685万円ですけれども、やっております。観光業者の方々は、土産物が売れずに、もう消費期限が過ぎて、非常に困っておるといことで、職員の皆さんも応援をしましてし、僕ら議員にも呼びかけられて、みんなで買いましたけれども、たかが知れておるんです。ですから、クリスマスプレゼントやないけれども、保育園児、幼稚園児、中学生は要らんか分からんけれども、小学生に、そういう地元のお土産物を、あまりお菓子食べさせたらあかんか分からんけれども、そういうものをセットして、子供たちにプレゼントしておると、これも国のほうでは、通過しておるわけです。松阪市がこれやっていますもので。第2次でやりました。

それから、僕らはまだ分からんだけでも、議長に聞くと一番分かるか分かりませんが、消防団の詰め所に、詰め所が幾つもあると思うんですけれども、除菌型の大型の空気清浄器というのを全部セットされているのでしょうか。

(「ないですね」の声あり)

○戸上 健議員 ありませんか。これから夏に向かってくると、それから災害がシーズンになります。そういうときに消防団で警報が出たら詰め所に詰めるわけですね。三密の状態になります。ですので、除菌型大型空気清浄器を、それを全部設置したと、これ鈴鹿市ですけれども、そういう事例もあります。これも、僕はぜひやってほしいなというふうに思いました。

それから、これは一般質問で言うて、教育長が拒否したけれども、スクール臨時バスの運行、ちょっとはやっておる間中ぐらいいは、この臨時交付金、たかだか二、三百万円やもんで、使えやんかなというふうにも思います。これも、もう一遍検討していただければというふうに思うんです。

それで、各市の事例を調べておると、もう1次2次でこういうメニューはやり尽くしたというので、今度の3次は、全住民に1万円、現金で渡すと、尾鷲市も全住民に渡します、1万円。それから、紀北町も全住民に1万円渡します。紀北町は水道料金の基本料金も、国の法律で無料にできるのは8か月までというふうに決まっておるらしいけれども、その8か月間無料にすると、さっきも水道課長に、その8か月間、基本料金無料に

する余力あるかと聞いたら、いやいや、もうありませんと、6か月間無料にしたのも臨時交付金で欲しいぐらいですと、返してほしいぐらいですと言うておった。

そやもんで、これはちょっと難しいか分からんけれども、僕はさっきの商品券出ていましたけれども、この補正の話、第15号か、これ見ると、全部よう使わんと千何百万円返ってきてとのやな、あれ。補正で。今度の。今日もろうた議案書見ると。

ということは、この第3弾のプレミアム付商品券が果たして市民に、それだけニーズがあるのかどうかと、さっき提案があつたけれども、ニーズがあるのかどうかということもよく調べた上で、僕はやってほしいと思うんです。意見をする場合は。

しかし、現金を1万円、みんなに配れば、それはもう何に使おうと、商品に使われるというのが圧倒的やもんで、ダイレクトに鳥羽市の地域経済というか、消費に直結するというふうに僕は思うんです。

それで、僕はこれを反対したけれども、漁民と海女さんに2万円ずつ配ったわな。それで市長は、一遍全部配りましたと、行き渡りましたもので、第2周目の先頭が漁民と海女さんですと、それを行政として忘れていませんよということで2万円配ったということで言うておったわ。

それはそうか分からんけれども、そして、国のほうでは、独り親世帯、生活困窮世帯に1人5万円、今度配るわけさ。それこそ隙間というか、そういう漁民と海女さんが2万円もらった、それから、生活困窮者や独り親世帯、これは5万円現金が来る、それ以外の市民に対して、じゃ、どういうフォローがあるかという、今のところ何にもフォローがないわけなんです。

せやもんで、尾鷲や紀北のほうに1万円配っておるわけです。国から5万円もらった人、それから、既に2万円もらった人、その人たちを除いた残りの人たちに1万円配ると、そうすると1億6,000万円でも僕は足りるというふうに思う。

それで、丸々それに使ってしまうと、このメニューはできませんというふうになれば、僕は5,000円でもいいと思うんさ。1人5,000円皆さんに配りますと、自由に使ってくださいと、そして、残った5,000円で、これで8,000万円ぐらいでこの残されたメニューをやってもらったらどうかというのが僕のアイデアだけれども、荒唐無稽かいな。既にそういうふうに尾鷲や紀北のようにやっておる市町もあるということです。

それで、そこの議員に聞いてみたら、「戸上さん、これは、うちは市長選挙と町長選挙があるんです」と言うんやわ。尾鷲も紀北も。そやもんで、そういうことになったということも、それはなきにしもあらずなんやけれども、しかし、住民にとっては、本当に、今、コロナで生活が困っておったときに、何らかの応援金が入ると言うことは、誰にでも喜ばしいことではないかというふうに思うんです。

プレミアム付商品券ということだけれども、これは、本当にお金がない人は買えないわけさ。2,500円で5,000円分やもんで。お金がなくても5,000円配られるということのほうが、よほど僕はありがたいんやないかなというふうに思います。

(「ちょっと無鉄砲」の声あり)

○戸上 健議員 無鉄砲な話をしたか分からんけれども、僕は皆さんのこのアイデアはよくぞ考えてくれたというふうに評価します。

○木下順一議長 よろしいですか。

検討アイデアですので、じゃんじゃん言ってください。検討アイデアですよ。

南川議員。

○南川則之議員 戸上議員より短く言わせてもらいます。

本当に、企画財政課、このアイデア出しというのを短い期間によく出してくれたなと思います。

先ほど副参事が言われたように実施計画に入っていないと使えないというところがあって、せっかく国から来た予算というのは、全額執行して全部市民のために使ってほしいなというところですよ。

それと同時に、どういうものを使ってほしいかというところについては、河村議員が言われたように、まず2次の繰越し部分を早くやるというのと、それから、それに付随して、本当に経済を回すというか、5月の連休があるんですけども、それまでに本当に持つか持たへんか、それどうなるんやというふうな話もよく聞きます。

ですから、早急に、課長が言われたように、いつでも使えるということですので、まずは鳥羽市がすごいことやったなというぐらいのものに使っていただいて、あとはコロナのフェーズとか、いろんなことを見ながら使わないかという、使えないところも含めてあると思いますので、とにかく集中して、鳥羽がすごいことを対策したなと、交付金を使ったなというところを目指してやってほしいなと思います。その辺の考えをよろしくお願いします。

○木下順一議長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一議長 よろしいですか。

山本議員。

○山本哲也議員 端的にいきたいと思います。

いろいろとアイデアを挙げていただいてありがとうございます。

いろいろアイデアを出すに当たって、いろいろヒアリングとかしていただいたかとは思いますが、一番は、やっぱり困っている方に届くかどうかというところやと思いますので、まずは、できれば、そういうしっかりと事業を組み立てるに当たっては、事業者ですとか、市民の方の声をしっかりと聞いていただくようにしていただきたいなというふうに思います。

あと、アイデアの一つになるかもしれないんですけども、経済的に困っている方もたくさんあるかもしれないんですけども、僕、結構、ハートというか、リフレッシュが必要な方とかというのも結構いるんじゃないかなと思うんです。介護職をされている方とか、病院でお勤めの方ですとか、それ以外でもコロナがあるのと思うようにお出かけできない方とか、子供を連れて遊びに行きたいけれども、あそこは人がいっぱいやしなとか、何らか、そういう難しいとは思いますが、何かリフレッシュするのを応援じゃないですけども、してあげたらいい、してあげてほしいなというところも、余分なところかもしれないんですけども、多分、そういう心に疲れている方とかというのも結構いるんじゃないかなと思うので、具体的にどういう手段があるかちょっとぱっとは思いつかないんですけども、そういうところのケアもしてあげられるといいのかなというぐらいのアイデアですけども、その辺も検討していただければなというふうに思います。

以上です。

○木下順一議長 ほかよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○木下順一議長 参考になったかどうか分かりませんが、ぜひ参考にさせていただいて、鳥羽市民のためにぜひ有効活用していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

この件は終了いたします。

以上で本日の協議事項は全部終了いたしました。

これをもちまして全員協議会を散会いたします。

お疲れさまでした。

(午後 2時59分 散会)

議長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和3年3月18日

鳥羽市議会議長 木 下 順 一